

和州三吉野なる泉寺の住僧仁西上人として
大峯なる験の事あり熊野権現の宣告よ
よつて彼温泉の山より湯のあひし人を預
りい湯社をつくらせむと二度無量のあきまの
世と温泉の利益ありや——是等馬乃
中無上人よて新臺菩薩の再来とあり
たゆみ——今平清水宿王^坊所持する縁記
といふ右の記を有る湯山由來の記を將
してち泉の正年なり——とある——より
るよそ七十三代 堀川の神宇といふを八

十五代 後堀川の神宇と將——仁西上人を
小聖工人と將——熊野権現の事し有るの
由縁記より云出——とある——又け秋或人
の許より温泉縁記といふ本を借りてよむ
よそ編十に年温泉村住人加藤氏等と
あり是又附書の説も——て信用するに足
りむ大をいふに温泉の始ハ昔弘法大師
湯坂集傳の下向よけ西を無くをのひ湯底
の流を改換してふ湯飯じと思ふりゆへ堀
の泉屋よあゆむをのひ流の川上より大日